



JFE

JFEグループ インベスターズ・ミーティング

2022年5月6日

JFEホールディングス株式会社

- **JFEグループ° 2021年度 決算**
- **セグメント別 業績の状況**
 - JFEスチール
 - JFEエンジニアリング
 - JFE商事
- **配当について**
- **2022年度について**
- **トピックス**
- **第7次中期経営計画の取り組み状況**

JFEグループ 2021年度決算



2021年度 決算概要

JFE

- 原料や物流費等諸物価の上昇によるコストの増加がある一方で、**堅調な鋼材需要と販売価格改善の取り組み**等により、鉄鋼事業を中心に**収益は大幅に回復**
- 事業利益4,164億円、当期利益2,880億円となり、前期から**黒字転換、リーマンショック以降の最高益**となった

(億円)	2020年度 実績(A)	2021年度 見通し(B)	2021度 実績			増減 (C-A)	増減 (C-B)
			上期	下期	年間(C)		
売上収益	32,272	43,700	19,429	24,221	43,651	11,379	▲49
事業利益	▲129	3,900	1,988	2,175	4,164	4,293	264
金融損益	▲124	▲100	▲56	▲60	▲116	8	▲16
セグメント利益	▲254	3,800	1,932	2,115	4,048	4,302	248
個別開示項目	204	▲120	—	▲162	▲162	▲366	▲42
税引前利益	▲49	3,680	1,932	1,953	3,885	3,934	205
税金費用・非支配持分 帰属当期利益	▲169	▲980	▲524	▲480	▲1,004	▲835	▲24
親会社の所有者に帰属 する当期利益	▲218	2,700	1,407	1,473	2,880	3,098	180

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの



2021年度 決算概要 セグメント別

JFE

(億円)	2020年度 実績(A)	2021年度 見通し(B)	2021年度 実績			増減 (C-A)	増減 (C-B)
			上期	下期	年間(C)		
売上収益							
鉄鋼事業	22,552	32,100	14,104	17,630	31,734	9,182	▲366
エンジニアリング事業	4,857	5,100	2,292	2,789	5,082	225	▲18
商社事業	9,325	12,100	5,444	6,873	12,317	2,992	217
調整額	▲4,461	▲5,600	▲2,411	▲3,071	▲5,483	▲1,022	117
合計	32,272	43,700	19,429	24,221	43,651	11,379	▲49
事業利益 (A)	▲129	3,900	1,988	2,175	4,164	4,293	264
金融損益 (B)	▲124	▲100	▲56	▲60	▲116	8	▲16
セグメント利益							
鉄鋼事業	▲654	3,030	1,585	1,652	3,237	3,891	207
エンジニアリング事業	240	250	111	148	260	20	10
商社事業	200	530	256	303	559	359	29
調整額	▲41	▲10	▲20	11	▲9	32	1
合計 (A+B)	▲254	3,800	1,932	2,115	4,048	4,302	248

連結キャッシュフロー、Debt/EBITDA倍率

JFE

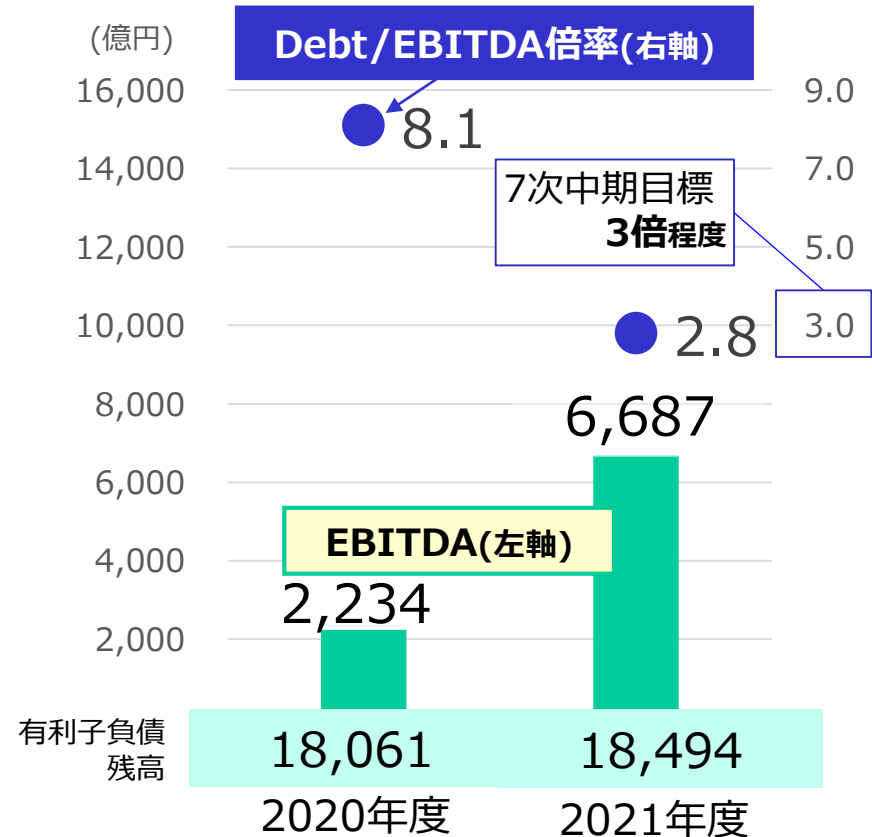
➤ 2021年度末のDebt/EBITDA倍率は、7次中期目標を超過（2.8倍）

連結キャッシュフロー

(億円)

Cash-in	Cash-out
当期利益 2,880	設備投資 および投融資 3,225
減価償却費 および償却費 2,522	配当金支払 404 運転収支他 2,616
資産圧縮 410	
有利子負債 433	

Debt/EBITDA倍率の推移



■ Debt/EBITDA倍率 = 有利子負債残高/EBITDA
 ■ EBITDA = 事業利益 + 減価償却費及び償却費

JFEスチール 2021年度決算

JFEスチール 2021年度 決算

JFE

	単位	2020年度 年間	2021年度					2021年度 年間 前回 見通し
			上期	10-12月	1-3月	下期	年間	
売上収益	億円	22,552	14,104	8,328	9,302	17,630	31,734	32,100
セグメント利益	億円	▲654	1,585	935	717	1,652	3,237	3,030
棚卸資産評価差等除き*	億円	▲314	685	▲35	647	612	1,297	1,270
単独粗鋼生産量	万 t	2,276	1,270	649	669	1,318	2,588	2,600 程度
連結粗鋼生産量	万 t	2,396	1,339	685	702	1,387	2,726	2,740 程度
単独鋼材出荷量	万 t	2,049	1,083	563	592	1,155	2,238	2,270 程度
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.3	46.5	45.9	43.6	44.7	45.5	46
鋼材平均価格	千円/ t	74.8	94.5	107.6	116.7	112.2	103.7	103 程度
為替レート	円/ドル	105.8	109.9	113.1	115.3	114.2	112.1	112

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

2021年度 見通し⇒実績 セグメント利益 +207億円内訳

- 主原料コストの早期反映を含む販売価格改善および、国内外グループ会社収益の向上により、対前回で改善

(億円)

JFEスチール	2021年度 前回見通し	2021年度 実績	増減 対前回
セグメント利益	3,030	3,237	+207

1. コスト

±0

2. 数量・構成

▲30

- 粗鋼量 2,600万t程度→2,588万t

3. 販価・原料

+100

- (≒鋼材トンあたり：+400円)
- 主原料コストの早期反映を含む販価改善

4. 棚卸資産評価差等

+180

- 棚卸資産評価差+90 (+1,510→+1,600)
- 原料キャリーオーバー影響+20 (+210→+230)
- 為替換算差+70(+40→+110)

5. その他

▲43

- 国内外グループ会社収益の改善
- 金属類の物価、資材・燃料コスト悪化 等

2021年度 セグメント利益 対前年度 +3,891億円内訳

- ▶ 新型コロナウイルス影響を大きく受けた2020年度からは需給環境が大幅に回復
- ▶ 主原料コストの販売価格への早期反映、輸出を中心とした市況好転・数量増、国内外のグループ会社収益の改善により、対前年度で大幅に改善

(億円)

JFEスチール	2020年度 実績	2021年度 実績	増減 対前年度
セグメント利益	▲654	3,237	+3,891

1. コスト

+300

- ・設備投資効果
- ・安価原料使用拡大 等

2. 数量・構成

+600

- ・鋼材需要回復による数量増
(粗鋼量 2,276⇒2,588万t)

3. 販価・原料

+1,030

- (≒鋼材トンあたり：+4,600円)
- ・主原料市況は大幅に上昇するも、主原料コストの早期反映や、需給・市況環境を背景とした販売価格上昇によりスプレッド改善

4. 棚卸資産評価差等

+2,280

- ・棚卸資産評価差+1,970 (▲370→+1,600)
- ・原料キャリアオーバー影響+200 (+30→+230)
- ・為替換算差+110(±0→+110)

5. その他

▲319

- ・国内外グループ会社収益の改善
- ・金属・スクラップ等の物価上昇 等

JFEエンジニアリング 2021年決算

2021年度決算

JFE

足元の事業環境/損益概況

▶ **国内の環境・エネルギー関連分野**および**インフラ分野**が**堅調に推移**したことから、
高水準の受注高を継続し、セグメント利益についても**4期連続増益**を達成*

- ・ **カーボンニュートラル分野**で**受注増加**
- ・ 資機材高騰等の影響はあったものの、企業買収による増収等により増益を確保

*セグメント利益： 17年度193億円、18年度201億円、19年度231億円、20年度240億円、21年度260億円(17年度は日本基準経常利益)

年度決算

(億円)	20年度 (実績) (A)	21年度 (見通し) (B)	21年度 (実績) (C)	増減 (対前年度) (C)-(A)	増減 (対見通し) (C)-(B)
受注高	5,011	5,300	5,058	47	▲242
売上収益	4,857	5,100	5,082	225	▲18
セグメント利益	240	250	260	20	10

対前年度

- ・売上収益 +225 前年度受注拡大、企業買収による増加
- ・セグメント利益 +20 売上収益増により増加、コストダウンによる改善

対前回見通し

- ・受注高 ▲242 海外案件の出件時期ズレ
- ・セグメント利益 +10 コストダウンによる改善

JFE商事 2021年度決算

2021年度決算

JFE

足元の事業環境/損益概況

- 全般的に新型コロナウイルス影響による落ち込みから回復
- 国内においては、**鋼材需要の回復や鋼材市況が堅調に推移したことにより増益**
海外ではマーケットが好調に推移したことで**特に北米事業のKelly Pipe等を中心に大幅に増益**
- 年間セグメント利益は**前回見通し比+29億円、前年度比+359億円**の**559億円**となった

業績見通し

(億円)	20年度 (実績) (A)	21年度 (見通し) (B)	21年度 (実績) (C)	増減 (対前年度) (C)-(A)	増減 (対見通し) (C)-(B)
売上収益	9,325	12,100	12,317	2,992	217
セグメント利益	200	530	559	359	29

対前回見通し : セグメント利益 +29

・北米事業のKelly Pipe等で高水準のスプレッド確保が継続したことによる増益

配当について



当期の期末配当については、
1株当たり80円（年間140円）とする案を
株主総会にお諮りする方針といたしました。

2022年度について



2022年度 連結業績予想について

JFE

緊迫するウクライナ情勢を受け、
今後の世界経済の動向は非常に不透明な状況にあります。
特に鉄鋼事業において、

- ・ 主原料価格が高値圏で乱高下を繰り返していること
- ・ 合金鉄やエネルギー等あらゆるコモディティ価格の高騰が続いていること
- ・ これらに伴い今後の鋼材価格の動向が不透明であること

から、現時点で合理的な予想の算定が困難であるため、
2022年度連結業績予想については未定としております。



足元の事業環境（鉄鋼事業）

JFE

■ 国内の事業環境

- 半導体などの部品供給制約により抑制されている自動車生産については、徐々に回復が見られるものの、回復速度は緩やか
- 他分野の活動水準については、国内外の経済の持ち直しを背景に底堅く推移
- 全体として、2022年の需給は再びタイト化へ

■ 海外の事業環境

- 世界経済の回復に伴い、鋼材需要は回復基調の継続が見込まれる
 - コロナ感染症のピークアウトにより、建設需要は回復傾向
 - 半導体などの部品供給制約も徐々に解消に向かい、自動車を中心とした製造業の活動水準の回復も見込まれる
- ウクライナ情勢や国内外でのコロナ再拡大のリスク（特に上海等の中国での大規模ロックダウン）等の影響を注視する必要あり



足元の主原料市況動向（鉄鋼事業）

JFE

■ 鉄鉱石

- 2022年は中国の年間粗鋼生産量制限が継続
- 粗鋼生産量制限のもと、中国の景気刺激策等に支えられ、当面は足元の高値圏が継続するものと考えられる
- 但し、中国の景気動向や政策に左右されるため、今後の動向に注視が必要

■ 原料炭

- 対ロシア経済制裁、コロナ影響、中国の政策等によって市況は大きく変動し、2022年度の市況前提の予測は困難
- 当面は、歴史的な高値圏での推移が継続するものと考えられるが、各国の動向により、引き続き荒い値動きが継続するものとしている



2022年度の方針（鉄鋼事業）

JFE

■ 販売価格：

- 2021年度に取り組んできた原料コスト早期反映の取り組み等を含む販売価格改善活動を加速
（既に足元の原料炭や諸物価の急騰に対しては、販売価格へ反映すべく活動を開始）
- 7次中期で掲げている「量から質への転換」や「販売価格の抜本的改革」の取り組みの一環として、これまでも行ってきた「エキストラ改善活動」や「持続可能となる価格水準への是正」をさらに本格化

■ コスト削減：+100億円（アクション+230億円、高炉改修▲130億円）

千葉6高炉改修の一過性コスト増が見込まれるが、可能な限り吸収すべく取り組む

■ 単独粗鋼生産量：2,600万トン程度

足元の事業環境が継続した場合の前提。

尚、現状は高炉8基稼働の体制で操業。9月より千葉6高炉の改修を予定。

需要に沿った合理化生産を志向する。

トピックス



傘下グループ会社の再編について

JFE

(2022年5月6日リリース)

JFEスチール株式会社によるJFEコンテナ株式会社の完全子会社化

- 鋼製ドラム缶と各種高圧ガス容器の製造・販売事業を担うグループ会社である、JFEコンテナ(株)について、株式交換による**完全子会社化を決定** (効力発生日：2022年8月1日)
- JFEスチールとの一体経営を通じ、これまで以上に中長期的視野に立った機動的かつ迅速な意思決定を行い、両社の経営資源を最大限活用した経営課題への対応・成長戦略を推進していく

完全子会社化による効果

1. 成長市場でのポジション確立、脱炭素・水素社会の実現に向けた取り組み強化
2. 国内ドラム缶事業での持続的成長
3. 海外戦略の加速
4. 人材交流の更なる促進によるノウハウ共有の進化及び人材の育成
5. 資金管理の効率化、上場維持コストの削減 等

第7次中期経営計画の 取り組み状況

中期主要収益目標と2021年度業績の総括

JFE

- **2021年度事業利益は4,164億円**となり、中期経営計画**2024年度目標を超過達成**
- その他収益指標に関しても、目標達成に向け、**順調な滑り出し**

		7次中期経営計画 2024年度	2021年度実績
グループ全体	連結事業利益	3,200億円	4,164億円
	親会社所有者帰属当期利益	2,200億円	2,880億円
	ROE	10%	15.7%
事業会社	鉄鋼事業 トン当たり利益* セグメント利益	10 千円/t 2,300億円	14 千円/t 3,237億円
	エンジニアリング事業 セグメント利益 売上収益	350億円 6,500億円	260億円 5,082億円
	商社事業 セグメント利益	400億円	559億円

* 鉄鋼事業のトン当たり利益（連結セグメント利益÷単体鋼材出荷数量）

鉄鋼事業の取り組み状況

2021年度の概況

- 2021年度は、棚卸資産評価益等の一過性影響もあり、2024年度収益目標を超過達成
 (21年度鋼材トン当たり利益：14千円/トン 24年度目標：10千円/トン)

↳ **棚卸資産評価差除きベース：6千円/トン** (対中期目標▽4千円/トン)

2021年度に達成した項目

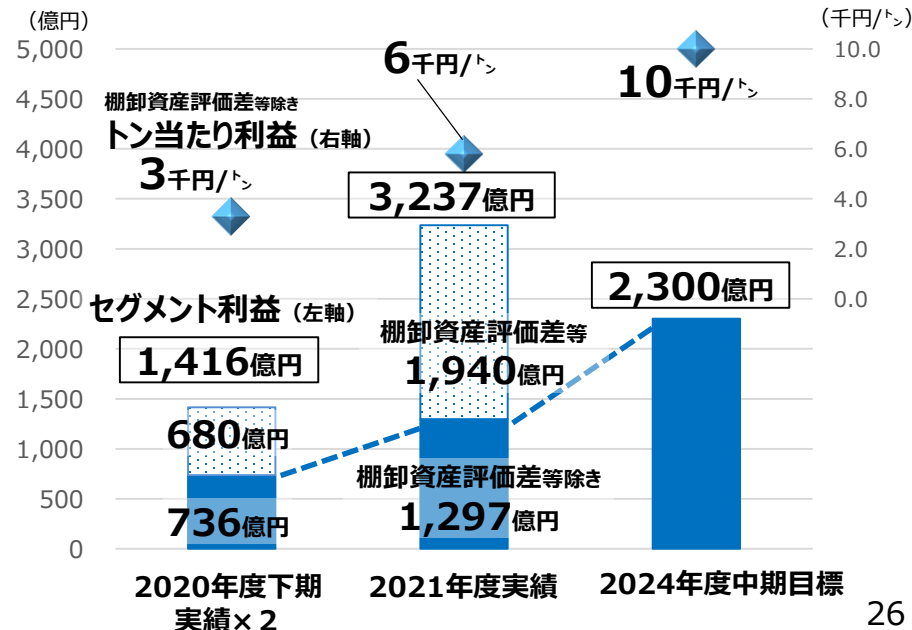
- ✓ コスト削減 300億円/年 達成
- ✓ 設備投資計画や倉敷地区の高炉改修等の着実な実行
- ✓ 販売価格の改善：主原料コストの販価早期反映、
エキストラ改善活動の開始・一部改訂 等

初年度に計画していた
主要施策は予定通り実行

中期目標達成に向けての施策 ～『量から質への転換』～

- **販売価格の抜本的な見直しの推進**
主原料コストの販売価格への更なる早期反映推進、
諸物価上昇の価格反映、
エキストラ改善活動のさらなる加速 等
- **構造改革完遂による効果の実現**
固定費削減効果の実現、労働生産性向上 等
- **プロダクトミックスの高度化**
(高付加価値品比率：
20年度40%→21年度45%以上*→24年度50%)
高級無方向性電磁鋼板の製造設備増強
洋上風力発電用大単重厚板の製造能力増強

*見込み



量から質への転換（構造改革と主な設備投資案件の進捗状況）



- 固定費の大幅削減（損益分岐点の引き下げ）の実現に向け、構造改革を着実に実行していく
- 京浜の跡地活用についても議論進展

設備	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度～
千葉 缶用鋼板設備休止 (第2タンDEM・第4CAL・TFL)			22年度9月目途に休止 (第2タンDEM・第4CAL・TFL) ★		
高炉改修		倉敷4BF (～21.12) ★	千葉6BF (22.9～23.1) ★		
京浜 上工程設備休止 (第2高炉・焼結・コークス炉・転炉・ 電気炉・連続鋳造機他)				23年9月目途に休止 ★	構造改革・設備投資 効果の実現 ・補修費削減 ・固定費削減 ・品種構成高度化 等
京浜 熱延設備休止 (熱延ライン【除く酸洗・スキパス】)				23年9月目途に休止 ★	
高付加価値品製造に関連する 主な設備投資		倉敷第7連続鋳造機稼働 (21.6～) ★		倉敷洋上風力向け大単重厚板 製造設備増強 (23.11) ★	24年度無方向性電磁鋼板 製造設備増強 ★

京浜臨海部を拠点とした水素・アンモニア供給事業の協業検討を開始（4月21日リリース）

- ENEOS株式会社、株式会社JERA、JFEホールディングス株式会社の3社共同で、**神奈川県京浜臨海部**において、以下の項目について協業の可能性を検討

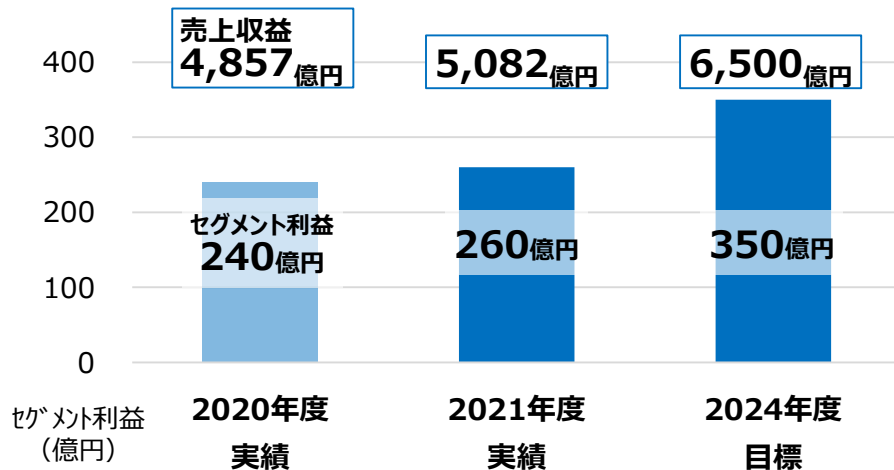
- 水素・アンモニアの受入・供給拠点の整備
- 水素・アンモニアの供給ネットワークの構築
- 水素・アンモニアの調達先、輸送キャリア、輸送方法

カーボンニュートラルの実現に向けて、脱炭素燃料の安定的かつ経済的なサプライチェーンの早期構築に貢献

エンジニアリング事業の取り組み状況

JFE

【売上収益とセグメント利益推移】



事業環境の概況

- 21年度収益は、環境分野でのM&A*効果が発現し増益、**中期計画に対してオンライン**の収益水準

*JFE環境テクノロジー（旧三井E&S環境エンジニアリング）

- コロナウイルス影響や政変等により一部海外で出件の遅れ・中止が見られるも、**廃棄物関連を中心に国内外で需要堅調**

2021年度の取り組みと今後に向けて

Waste to Resource

- リサイクルビジネス拠点 全国拡大、工場立ち上がり
(稼働中：国内8拠点、22年以降稼働予定：国内5拠点)
- ✓ 西日本ペットボトルMRセンター全面稼働
(中部・西日本地区初 ボトルtoボトル原料製造 22年4月)

カーボンニュートラル

- 洋上風力発電用 モノパイル式基礎
国内初の新工場建設決定 (24年4月稼働予定)
- 日本最大級 木質バイオマス発電所の事業化決定
(田原バイオマスパワー 22年4月建設開始、25年9月稼働予定)

複合ユーティリティサービス

- 日本初 ガス上下水道の一体運営サービス開始
(妙高グリーンエナジー 21年9月設立 22年4月運営開始)

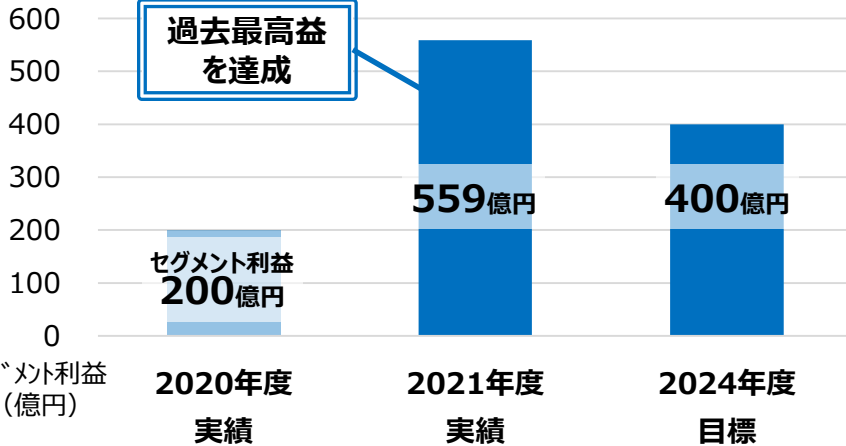
M&A等による基盤強化、海外運営事業への参入

- 海外事業におけるM&A効果の発現、規模拡大
(JFEプロジェクトワン：旧三井E&Sプラントエンジニアリング)
- 海外地域における廃棄物発電(ベトナム)、
産廃処理(マレーシア)の運営事業に参入

商社事業の取り組み状況

JFE

【セグメント利益推移】



事業環境の概況

- コロナ禍からの活動水準回復や、鋼材市況の上昇等により、21年度は**過去最高益を達成**
- 中期計画目標を上回る水準であるものの、鋼材市況上昇等の環境に恵まれた面もあり、**中期計画で掲げる重点施策は推進継続**
- 国内外のサプライチェーン強化を着実に進展

2021年度の取り組みと今後に向けて

電磁鋼板グローバル加工流通No.1確立

- 車載モーターや変圧器の需要拡大を捕捉するため、国内外で投資を推進
 - ✓ カナダ 変圧器コア製品用設備増強決定 (JSC 21年10月)
 - ✓ 中国 車載モーターコア製品用設備増強決定 (江蘇川電 21年11月)

自動車向け鋼材のサプライチェーン強化

- グローバル4極におけるJFEグループ連携深化
 - ✓ メキシコ 自動車向け鋼材加工拠点稼働 (JSSB 21年5月 : スチールNJSMに隣接)
 - ✓ 中国 加工センターでの設備増強決定 (広州川電 21年10月 : スチールGJSS近郊)

海外建材事業の拡大

- ASEANにおける建材需要の捕捉
 - ✓ ベトナム 鋼板製造メーカーへの追加出資 (TON DONG A CORPORATION 22年3月)



GX・DX投資の進捗について

JFE

2021年度の進捗 GX・DX投資

- 各事業会社、概ね中期計画マイルストーン通りの投資進捗
- 2021年度 グループ全体での投資採択

GX 投資 中期期間投資額の
40%弱

DX 投資 中期期間投資額の
30%強

- 2021年度に採択した主要なGX投資

➤ 洋上風力・エコプロダクト等を通じ、社会全体のCO₂削減に貢献

洋上風力 モノパイル式基礎 新工場建設
(エンジニアリング事業 24年4月稼働予定)

投資額
400億円

厚板大単重能力増強
(鉄鋼事業 23年11月稼働予定)

投資額
130億円

電磁鋼板 無方向性電磁鋼板 製造設備増強
(鉄鋼事業 24年度上期稼働予定)

投資額
460億円

➤ 鉄鋼事業のカーボンニュートラルにむけた投資も着実に推進

7次中期期間中の
投資計画(Gr全体)

GX : 3,400億円

DX : 1,200億円

環境的持続性確立のための取り組みについて

2021年度の進捗 JFEグループのCO₂排出量削減

- ✓ 2030年度削減量目標の見直し
 - ・ 既存技術の適用拡大や新規削減アイテムの積み上げ、迅速かつ効率的な推進体制の構築により、目標を「**30%以上削減**」(2013年度対比) に設定
- ✓ カーボンニュートラルロードマップの進展 (次ページ詳細)
- ✓ NEDO グリーンイノベーション基金に採択
 - ・ 政府の支援を受けながら、超革新的プロセスの開発プロジェクトを始動
- ✓ 日本製造業初のトランジションボンドの発行を決定
 - ・ カーボンニュートラルに向けた事業計画の策定・公表が**パリ協定に整合していること**、**設備投資計画が当社排出量削減目標と整合していること**を外部機関により認証

2021年度の進捗 外部評価機関からの評価

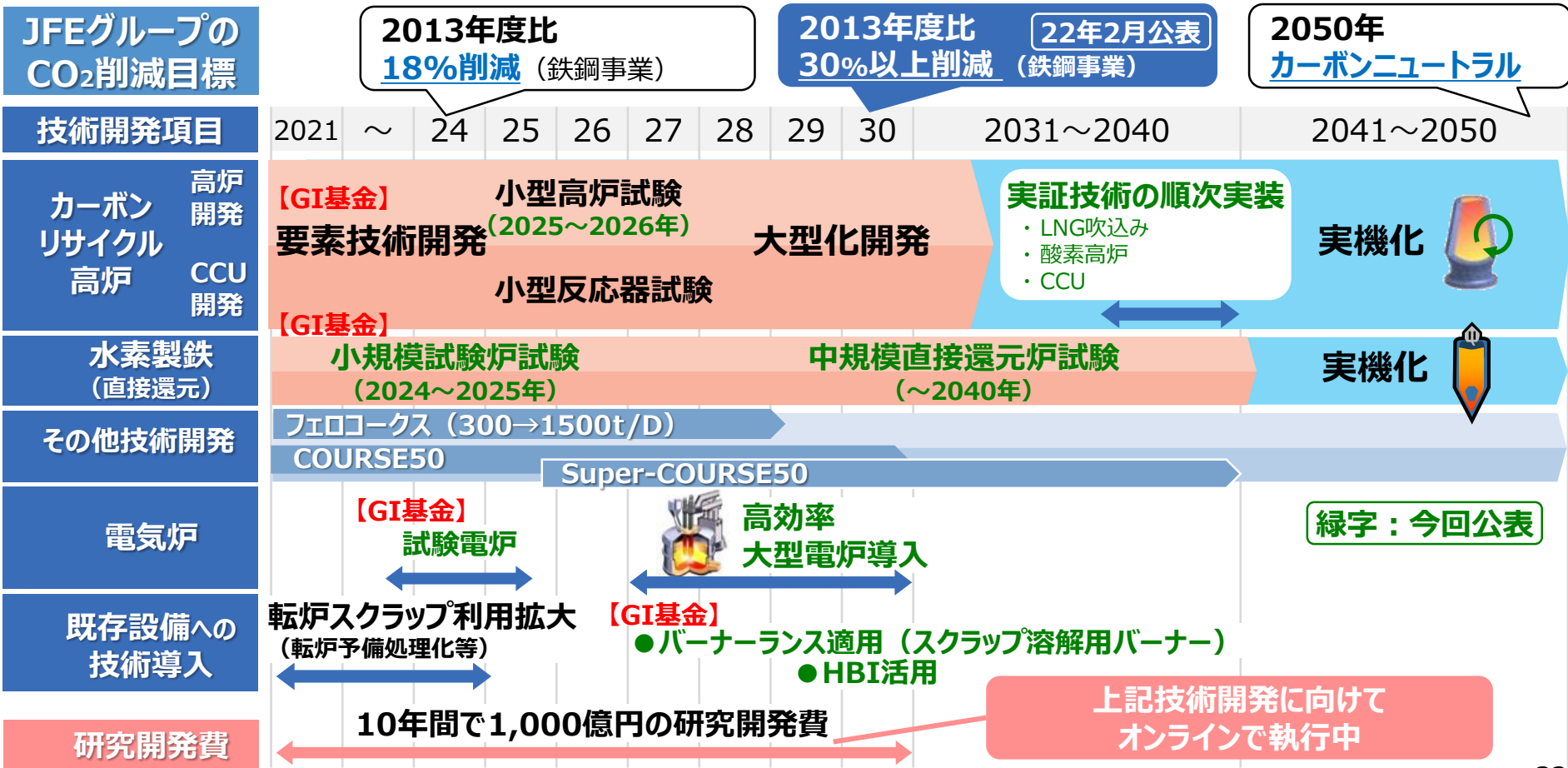
- ✓ ESGの代表的指数「FTSE4Good Index Series」
「FTSE Blossom Japan Index」に2年連続選定
- ✓ CDP評価 「気候変動」「水セキュリティ」分野で高評価「A-」を獲得

鉄鋼事業 カーボンニュートラルロードマップ

JFE

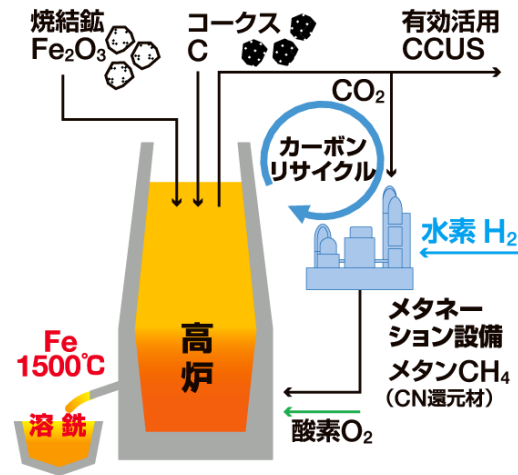
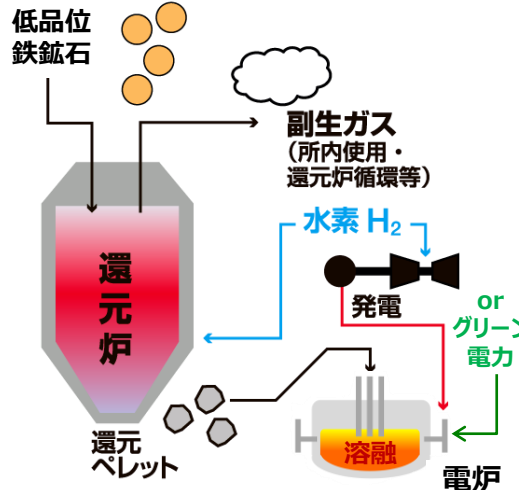
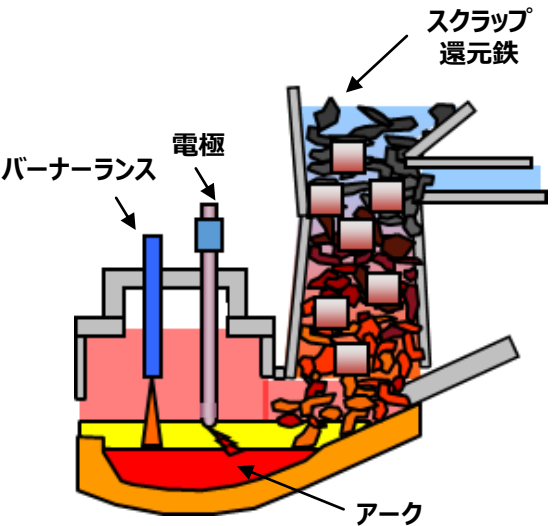
2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップを進展、以下技術の導入を具体的に検討

- 炭素リサイクル高炉について、**実証された技術から順次実装**（2030年代後半）
- 水素製鉄について、**小規模炉による試験**（2024～25年）、**中規模炉による試験**（～2040年）
- **千葉地区に試験電炉導入**（2024年～試験開始） → **高効率大型電炉の導入**（2027～30年）



GI (グリーンイノベーション) 基金事業の開発内容

- 2021年12月24日 グリーンイノベーション基金事業/製鉄プロセスにおける水素活用プロジェクトに採択
- 本基金を活用し、「環境経営ビジョン2050」で表明したカーボンニュートラルの実現に向けた開発を加速

	①カーボンリサイクル高炉法	②直接還元製鉄法	③高効率/大型電気炉
開発項目			
開発内容	<p>高炉から発生するCO₂をメタンに変換し還元材として繰り返し利用するプロセスを開発。千葉地区に150m³規模の小規模試験高炉を建設し、50%以上のCO₂削減を確認。</p> <p>2025年から小型高炉での試験を開始。2030年までに技術確立し、2050年までに実装化完了。</p>	<p>水素を用いて、還元炉で既存高炉で使用する低品位鉄鉱石から酸素を取り除き、還元鉄(Fe)を製造する直接還元製鉄法の開発。千葉地区に小規模試験還元炉を建設し、50%以上のCO₂削減を確認。</p> <p>2024年から小規模試験を開始。2030年までに技術実証し、2050年までに実機化を目指す。</p>	<p>スクラップや還元鉄を用いた電気炉において、溶解の高効率化、鋼材の高品質化方法を開発。千葉地区に小規模試験電炉を建設し、不純物の濃度を高炉法並みに制御できることを確認。</p> <p>2024年から小規模試験を開始。2030年までに実機化。</p>



中期主要財務・収益目標と2021年度業績の総括

JFE

- ROEとDebt/EBITDA倍率は中期目標を超過。2021年度年間配当は140円/株を予定
(JFE発足以来最高)
- **カーボンニュートラル達成に向けた取り組み**についても、鉄鋼事業のCO₂排出削減、社会全体でのCO₂削減への貢献を通じて継続推進
- 2021年度収益は、棚卸資産評価益や海外鋼材市況の上昇等の**一過性要因を含む**。2022年度以降も、2024年度の目標達成に向け、**各種重要施策の取り組みを加速**

		7次中期経営計画 2024年度	2021年度実績
グループ全体	連結事業利益	3,200億円	4,164億円
	親会社所有者帰属当期利益	2,200億円	2,880億円
	ROE	10%	15.7%
	Debt/EBITDA	3倍程度	2.8倍
	D/E*	70%程度	80.8%
	配当性向 (一株当たり配当金)	7次中期 30%程度	(140円)

* 格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付け機関の評価により資本に算入

參考資料



主な財務関連データ

JFE

【日本基準】

年度	'13	'14	'15	'16	'17	'18
【主要財務指標】(億円、%、倍)						
経常利益	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
【1株当たり情報】(円/株、%)						
親会社株主に帰属する当期純利益	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	40	60	30	30	80	95
配当性向	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

【日本基準】

※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費

※2 ROS: 経常利益/売上高

※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本

※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産

※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

年度	'18	'19	'20	'21
【主要財務指標】(億円、%、倍)				
事業利益	2,320	378	▲129	4,164
EBITDA ※1	4,282	2,694	2,234	6,687
ROS ※2	6.0%	1.0%	▲0.4%	9.5%
ROE ※3	8.6%	▲11.1%	▲1.3%	15.7%
ROA ※4	5.0%	0.8%	▲0.3%	8.4%
有利子負債残高(期末)	15,238	18,143	18,061	18,494
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.7倍	8.1倍	2.8倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	96.4%	93.2%	80.8%
【1株当たり情報】(円/株、%)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	▲343.4	▲38.0	500.1
配当金	95	20	10	140
配当性向	33.5%	-	-	28.0%

【IFRS】

※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費

※2 ROS: 事業利益/売上収益

※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分

※4 ROA: 事業利益/資産合計

※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

2021年度上期⇒下期 セグメント利益 +67億円内訳

- 下期にかけて粗鋼生産量は増加し、コスト改善が進捗
- その他原料の物価上昇はあるものの、主原料コストの早期反映を含む販価改善により下期損益は上期に対し改善

(億円)

JFEスチール	2021年度			増減 2021上→下
	上期	下期	年間	
セグメント利益	1,585	1,652	3,237	+67
1. コスト	+150			<ul style="list-style-type: none"> • 設備投資効果 • ソフト改善 等
2. 数量・構成	+140			<ul style="list-style-type: none"> • 倉敷第4高炉の改修工事完了に伴う生産量増 (粗鋼量 1,270万t⇒1,318万t)
3. 販価・原料	+530			(≒鋼材トンあたり：+4,600円) <ul style="list-style-type: none"> • 主原料物価は上昇も、早期反映を含む販価改善により スプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	+140			<ul style="list-style-type: none"> • 棚卸資産評価差+420 (+590→+1,010) • 原料キャリーオーバー影響▲370 (+300→▲70) • 為替換算差+90(+10→+100)
5. その他	▲893			<ul style="list-style-type: none"> • 減価償却費・経費 • 金属・スクラップ等の物価上昇 等

2021年度10-12月

⇒2021年度1-3月 セグメント利益 ▲218億円内訳

JFE

JFEスチール	2021年度					増減
	4-6月 実績	7-9月 実績	10-12月 実績	1-3月 実績	年間 実績	
セグメント利益	697	888	935	717	3,237	▲218

1. コスト

±0

2. 数量・構成

+30

・粗鋼量 649⇒669万t +20万t

3. 販価・原料

+1,100

(鋼材トンあたり：+18,600円)

・鉄鉱石価格の下落に加え、前四半期の原料炭価格高騰を販売価格に早期反映し、スプレッド改善

4. 棚卸資産評価差等

▲900

- ・棚卸資産評価差▲270(+640→+370)
- ・原料キャリーオーバー影響▲670(+300→▲370)
- ・為替換算差+40(+30→+70)

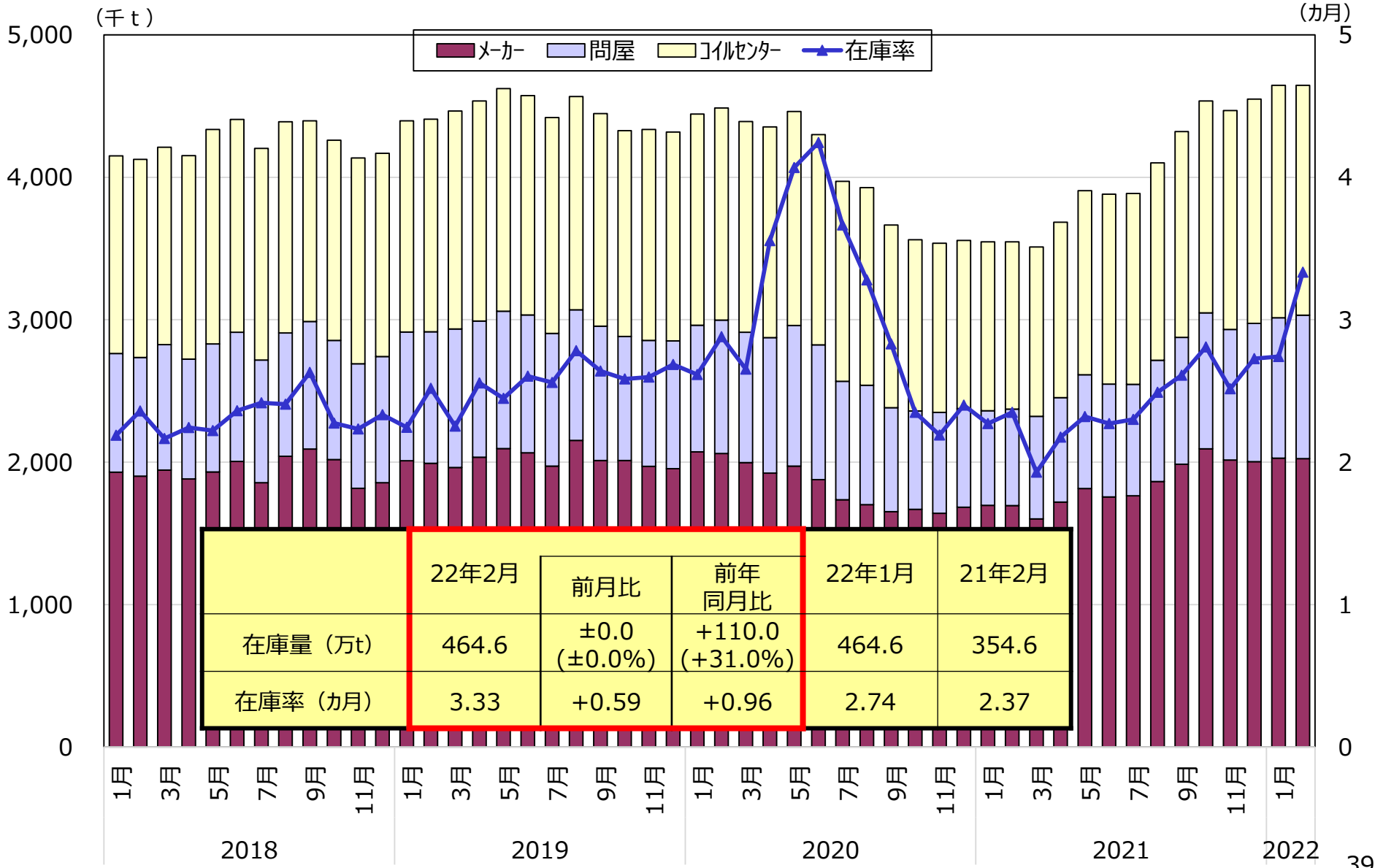
5. その他

▲448

・減価償却費・経費 他

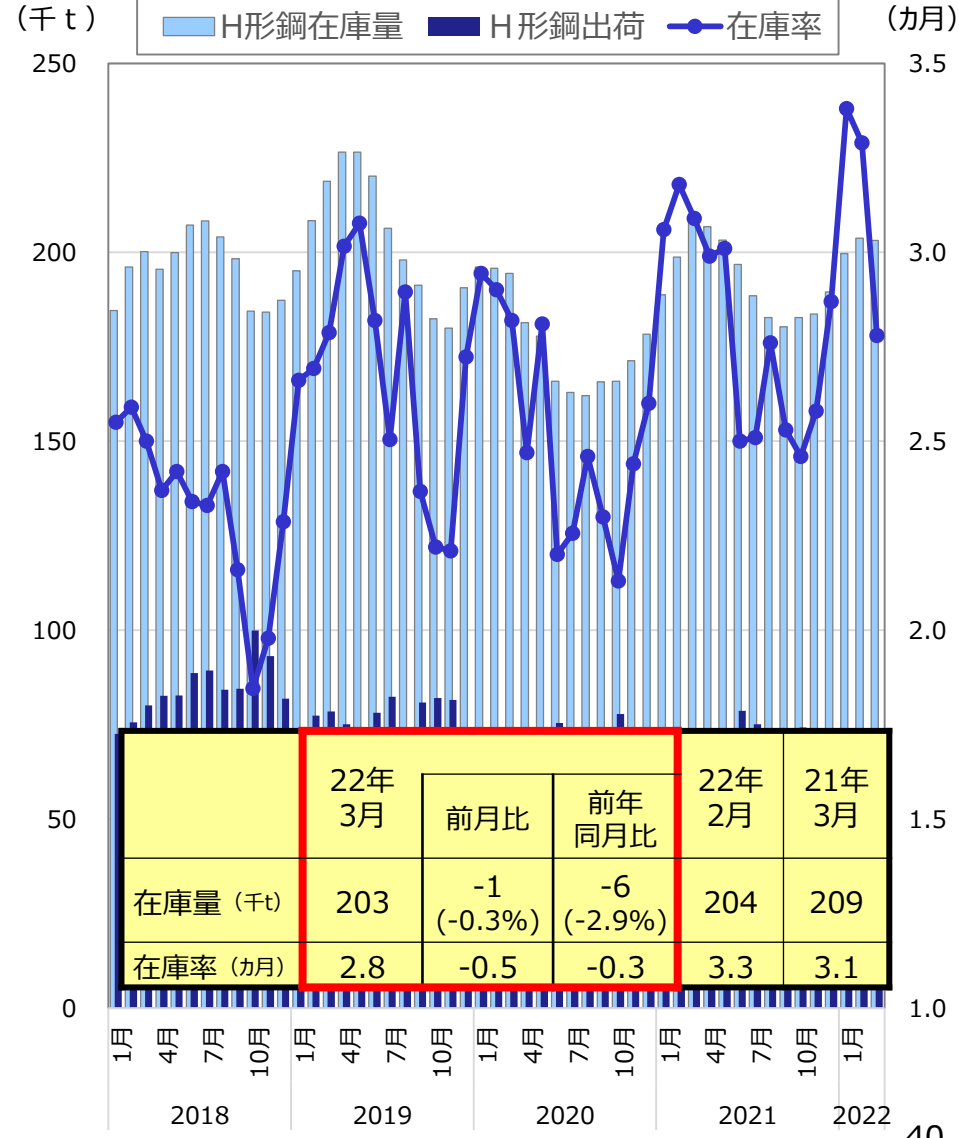
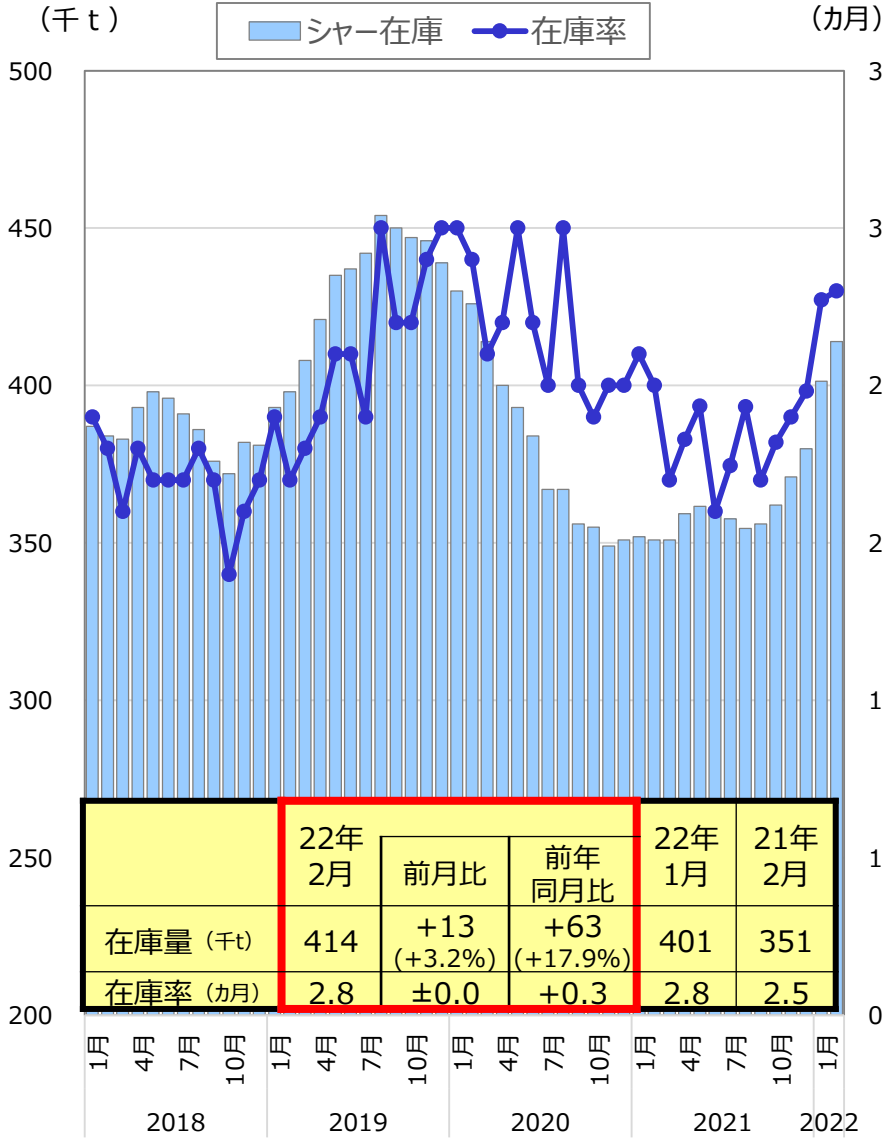
国内販売環境

薄板 3 品在庫



国内販売環境

厚板シャー・H形鋼在庫

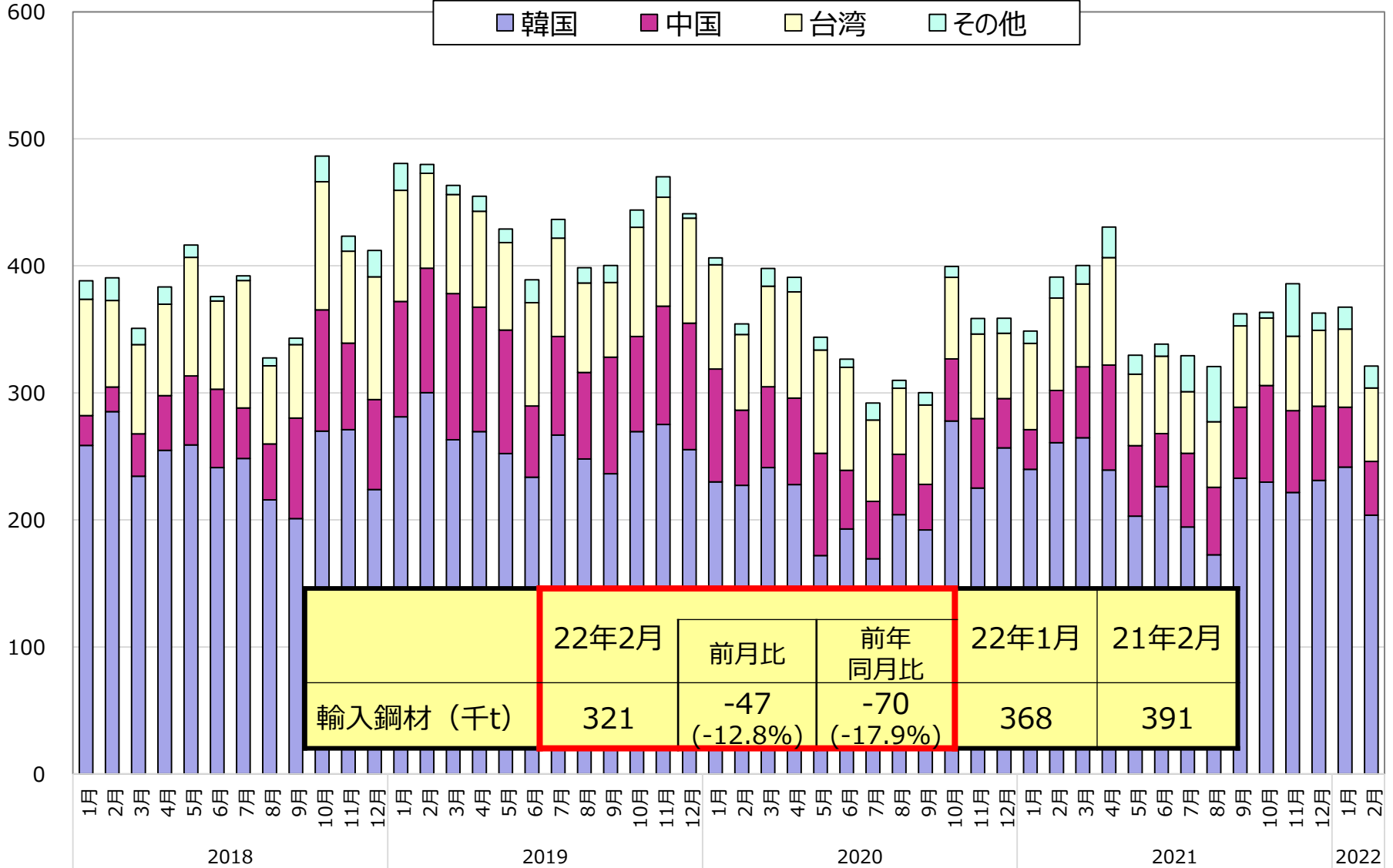


国内販売環境

輸入鋼材（普通鋼/国別）



(千t)



	22年2月	前月比	前年 同月比	22年1月	21年2月
輸入鋼材 (千t)	321	-47 (-12.8%)	-70 (-17.9%)	368	391

海外販売環境

中国粗鋼生産・輸出入



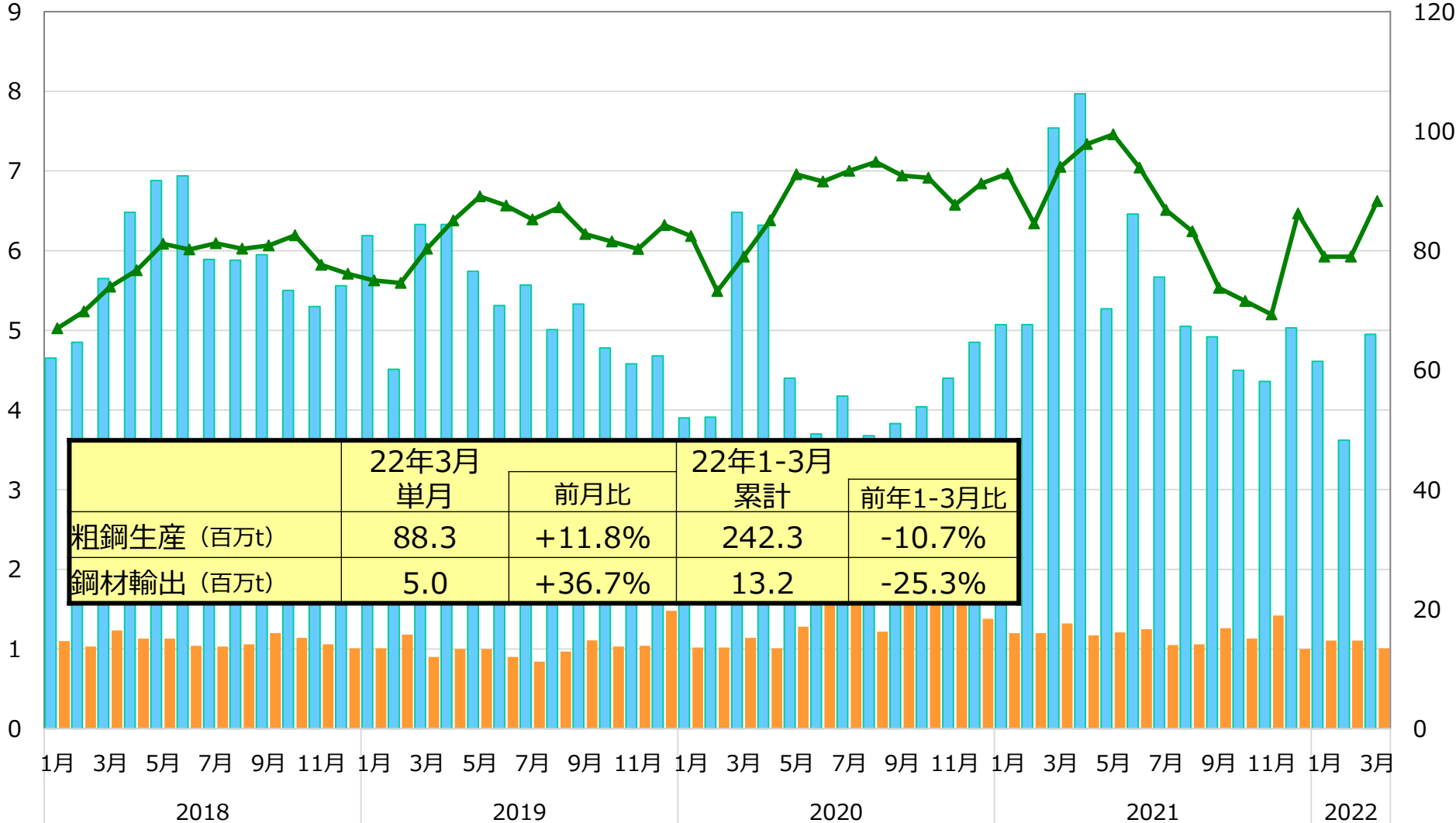
(百万 t)

輸出 (左軸)

輸入 (左軸)

粗鋼生産 (右軸)

(百万 t)

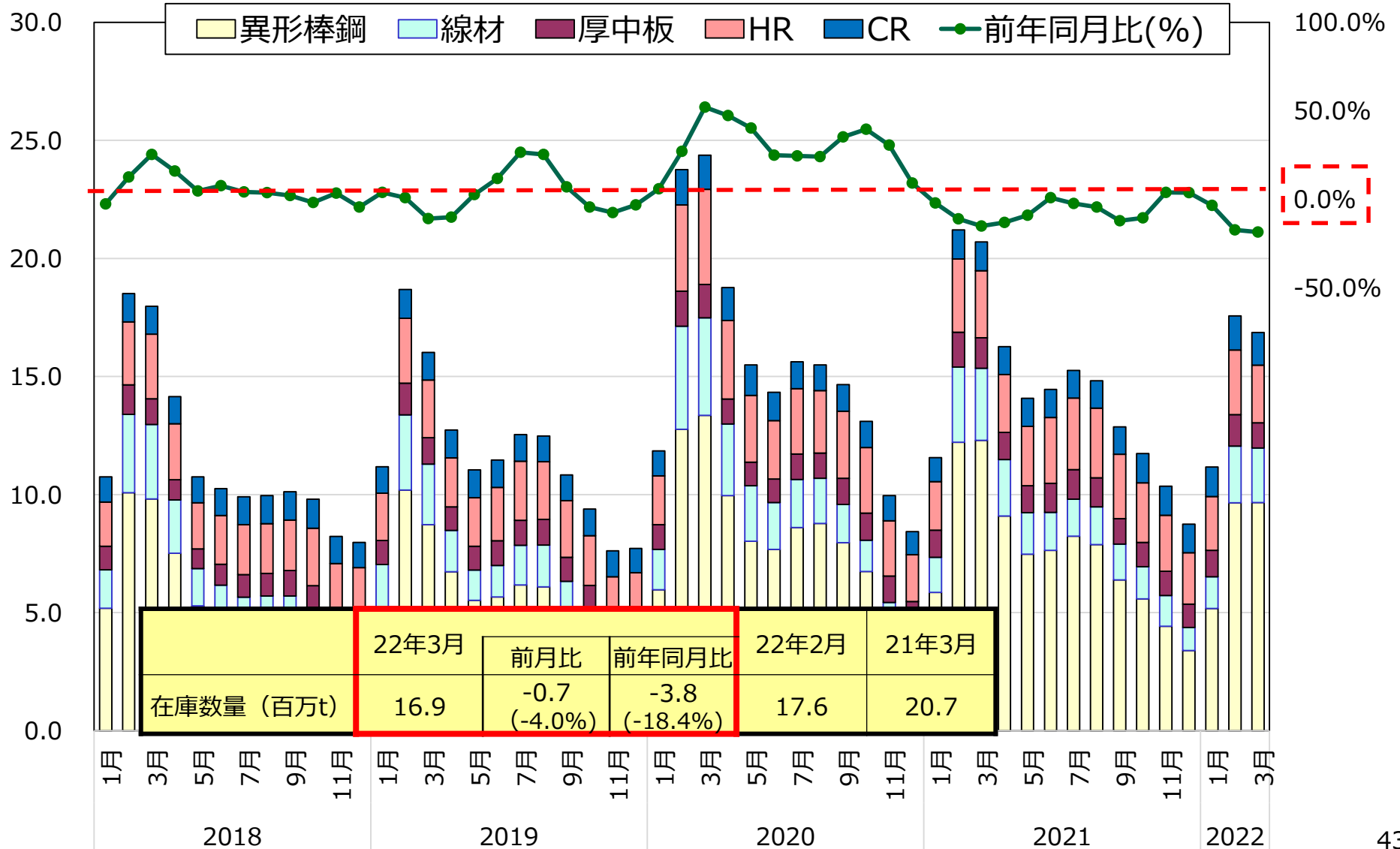


海外販売環境

中国品種別在庫数量



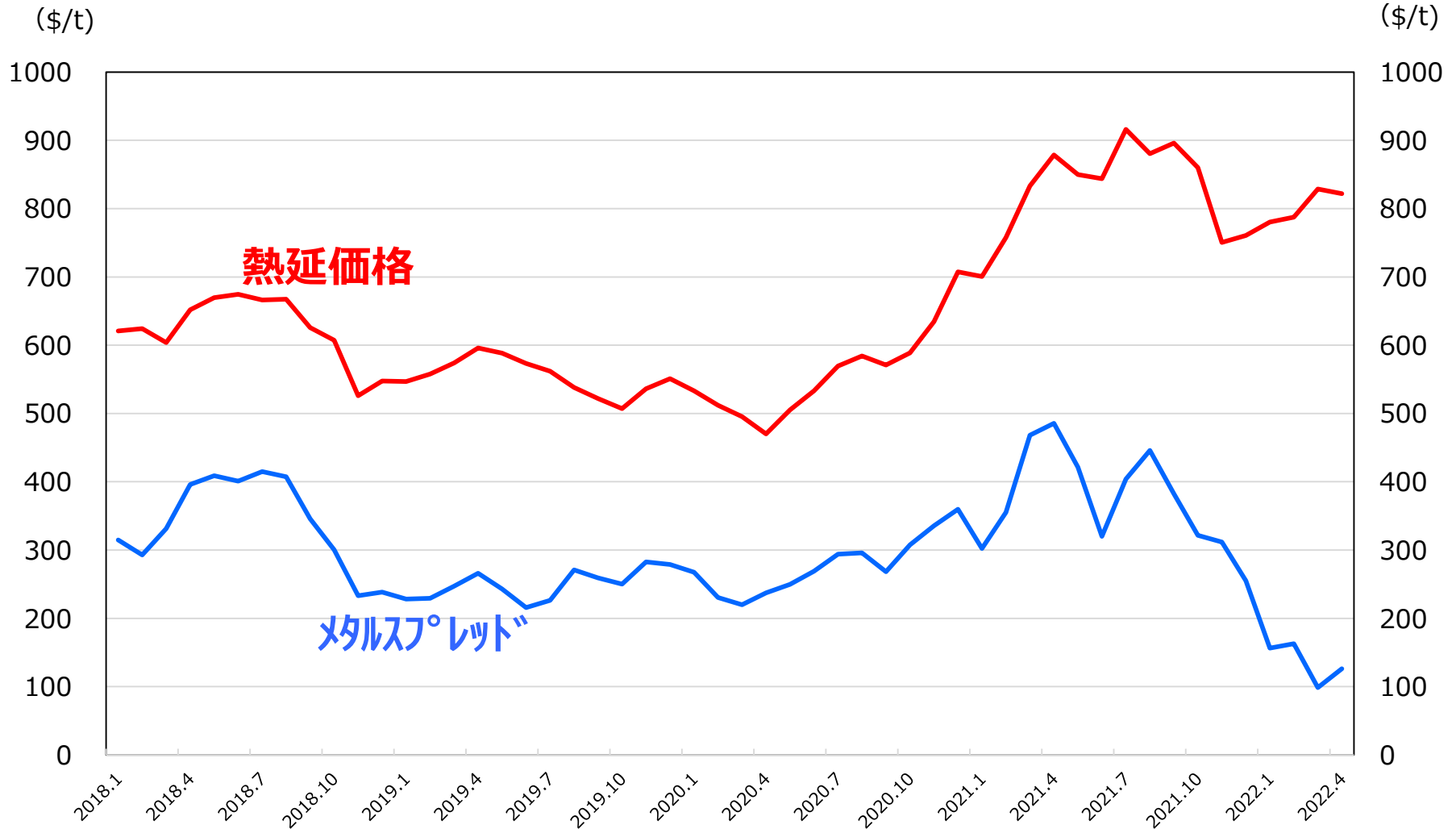
(百万 t)





海外販売環境

(中国スポットベース)
メタルスプレッド



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

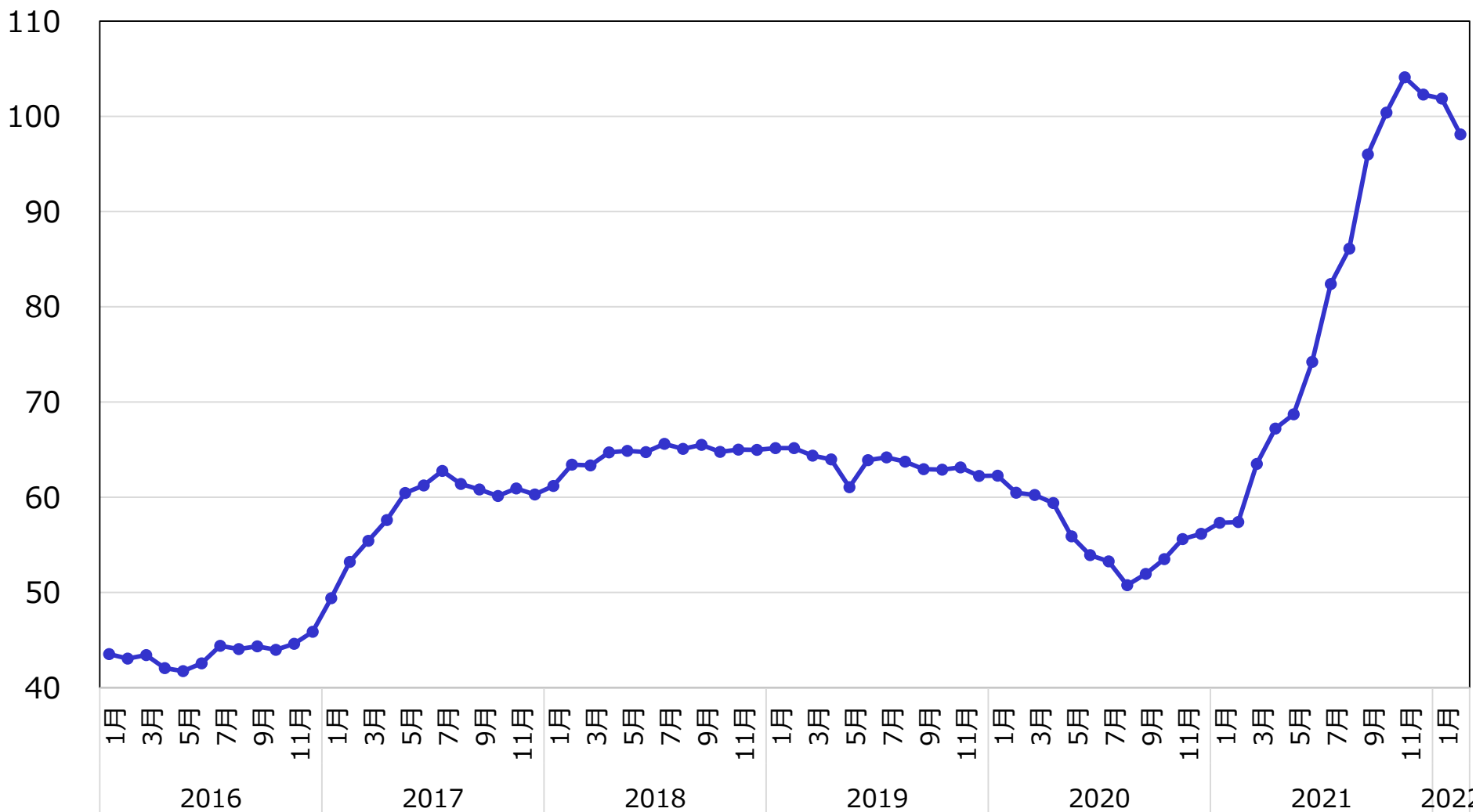
※熱延価格：中国5都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

国内販売環境

輸入鋼材価格

JFE

(千円/t)



日本鉄鋼連盟データより作成（韓国から輸入の熱延広幅帯鋼）

設備投資・構造改革スケジュール







設備		～19年度	20年度	21年度	22年度	23年度～	
構造改革	京浜 上工程設備休止 (第2高炉・焼結・コークス炉・転炉・電気炉・連続鑄造機他)					★ 23年9月目途に休止	
	京浜 熱延設備休止 (熱延ライン[除く酸洗・スキnpas])					★ 23年9月目途に休止	
	京浜 冷延・表面処理ライン休止 (第1タンデム・第3CGL)		★ 19年度末休止				
	千葉 缶用鋼板設備休止 (第2タンデム・第2/4CAL・TFL・第2ETL)		★ 19年度末一部休止 (第2CAL・第2ETL)			★ 22年9月目途に休止 (第2タンデム・第4CAL・TFL)	
新規稼働設備	千葉・倉敷 高炉改修			★ 倉敷第4高炉改修 (～21.12)	★ 千葉第6高炉改修 (22.9～23.1)		
	倉敷 連続鑄造			★ 第7連続鑄造機稼働 (21.6)			
	倉敷 厚板					★ 大単重厚板製造設備増強 (23.11)	
	倉敷 電磁鋼板					★ 24年度上期無方向性電磁鋼板製造設備増強	
	福山 コークス炉	★ 第3コークス炉A団		★ 第3コークス炉B団 (21.6)			
	福山 焼結	★ 第3焼結機稼働					
	福山 エネルギー		★ 共同火力発電所新2号機稼働				
	福山 フェロコークス		← フェロコークス製造、運用技術開発 →				
	海外 メキシコNJSM		★ 自動車用CGL稼働				

JFEエンジニアリング 受注内容

(億円)

分野	2020年度 実績	2021年度 実績	増減	2021年度 主な受注内容 ★・・・第4四半期 新規・追加受注案件
Waste to Resource	2,200	2,039	▲161	国内廃棄物処理施設 新設工事[奈良、名古屋] 国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[高知] 海外廃棄物処理施設 新設工事[ベトナム]
カーボン ニュートラル	360	874	514	松川地熱発電所更新工事[岩手] 森バイナリー発電所建設工事[北海道] 田原1区バイオマス発電設備建設工事[愛知]
複合 ユーティリティ サービス	110	134	24	
基幹 インフラ	2,341	2,011	▲330	姫路発電オフサイト設備設置工事[兵庫] 入江崎総合スラッジセンター 汚泥処理施設更新工事[川崎] 国内橋梁新設 (★東海環状自動車道[岐阜]) 国内橋梁改築 (東名高速道路 [静岡]、首都高速道路[東京]、 中央自動車道[長野])
合計	5,011	5,058	47	

今年度発行資料 リンク集

資料名	URL	QRコード
JFEグループレポート 2021 (統合報告書)	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html	
CSR報告書 2021	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/data/index.html	
CSR報告書 2021 環境データ集	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/2021/2021_08.pdf	
DXレポート 2021	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/dxreport/index.html	



JFE

Copyright © 2022 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい